

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「夕焼け小焼け」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥409番地1		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果市町村受理日	平成27年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171000488-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171000488-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白鳥町の中心部に近い住宅街という環境の中で、地域社会との交流を深めながら、その地域の一員として意識を持ってもらい、日々の生活の中で、生き甲斐を持って楽しく安らかに生活していただけるような心細やかな、支援が出来るよう取り組んでいる。  
医療法人社団 福寿会としてグループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者介護、短期入所生活介護、居宅介護支援のサービスを行っており、それらの施設と連携をとりながら、利用者や家族の希望に沿った個々の利用者に適した総合的なサービスの提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者が住み慣れた地域の中で、生きがいを持って、笑顔で生活できるような支援に取り組み、実践をしている。異業種から転入の職員が多く、その経験を活かしながら、人生経験豊かな利用者から、新たな発見を見出し、常に利用者中心の暮らしを支援し、思いを共有している。そして、同法人が運営する併設の介護事業所や医療と緊密に連携し、利用者が安心して、最期まで、自分らしい生活が継続できるように、質の高い、総合的なサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームが地域社会で果たす役割等を常に意識しながら、どういったサービスを提供していけばよいかを考えながら実践につなげている。スタッフの中には地域密着型のサービス理念を理解していない人もいたため、さらに意識を共有できるよう努めたい。	地域の一人として、地域の活動に参加し、協力関係を築きながら、「見守り、見逃しません、笑顔を引き出す」の理念の意義を、日々確認し、共有して取り組み、利用者の安心と笑顔のある暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春、秋の祭礼における獅子舞や神輿、山車などが必ず寄ってくれ、地域の方と利用者との交流を深めたり、白鳥踊りの会場提供により、利用者が踊りに参加したりしている。今後、グループホームがもっと開放的な場所として地域に認知されるよう努力したい。	保育園児や小中学生との交流を継続している。夏祭りには、職員が地域住民と連携して取り組み、敷地の提供と準備に積極的に関わり、利用者も踊り等に参加をし、楽しんでいる。地域との交流により、住民の介護相談の窓口的な役割も果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、認知症に対する理解や啓発活動、家族支援などをテーマにした勉強会やイベント等の開催を計画したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて避難訓練に自治会の人に参加してくれるようになったのは、大きな前進だと思う。又、利用者も会議に出席していただいたが、発言するまでにはいならず、会議そのものが少し堅苦しい感じもあると思いき余の余地はあると思う。	会議は、定期に開催している。運営の実情を報告し、行事計画でも意見を交換している。また、会議に合わせて、学習会を実施している。委員からは、利用者の日常生活の見学や、ふれあいの場を儲けてほしいとの要望がある。	運営推進会議の開催場所やテーマについて、目的と内容を明確にし、委員の意向やグループホームが理解され、利用者サービスに反映できるような工夫に期待をしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、市の介護相談員が来ていただいて、利用者や職員の相談等を受けている。また、日常的に市の高齢福祉課等に相談したり、アドバイスを受けてたりして連携を深めている。	市の担当者とは、常に連携し、困難事例や法改正などで助言を得ている。また、事業所の実情やサービスの取り組みを報告し、協力関係ができていく。行政主催の住民向け講習会に、講師を派遣している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームにおけるサービスの最大の売りは安心、安全、安寧であり、身体拘束はこのお考えに逆行するもので、このことをスタッフとともによく考え、今後も個人の人権や尊厳が侵されることのないよう取り組んでいきたいと思っております。	身体拘束や虐待について、職員は事例を基に学習し、拘束の弊害を認識して、拘束ゼロのケアに取り組んでいる。日常ケアの基本である「見逃さず、見守り、心配り、優しく語りかけ」を実践し、抑圧感のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法を理解して、利用者には、穏やかに生活していただくよう支援している。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する制度について、具体的にそれを活用できるような支援は行っていないが、研修等に参加するなど、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に、または、契約締結時には、不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得て契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や家族が訪れやすい雰囲気を作ることを心がけ、職員の思い込みの考えにならないよう、利用者、家族に意見を聞き、ケアに取り組んでいる。また、市の介護相談員等の意見を参考にして、違った視点から気づくことにより、自分達のケアの考えの振り返りにもなっている。	家族の訪問時や家族会の際に、意見や要望を聴いている。定期通信と担当職員の家族宛ての手紙で、生活の様子を報告し、返事も届いている。遠足の支援や敬老会への出席なども、地域や家族と話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフから特に運営に関する意見が出るわけではないが、常に開かれた環境を作り、風通しのよい職場にしたいと思っている。スタッフからは意見が言えるが、反映にするところまでには、もう少し時間がかかるのではないか、という意見もあった。	他職種で経験を経た職員、専門分野の経験を経た職員があり、それぞれの能力や経験を統合することで、全体のモチベーションを高めている。管理者は、日々のケアを通じ、職員の意見や提案を受け入れ、利用者支援につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を考慮し、各自が向上心を持って働けるよう配慮はしているが、更なる処遇改善に努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、その段階に応じ、計画に基づいて、定期的に研修を受けている。また、資格取得に対する経済的支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、岐阜県グループホーム協議会に加入しており、勉強会・研修への参加や相互訪問等の活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階で、本人や家族との話し合いを持ち、現在の状況やこれまでの生活等の情報を出来るだけ集め、サービス計画の基本を作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも出来る限り面談し、話を聞く機会を設けて、不安を取り除き、安心して入所していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときは、まず、どのようなサービスが適切なのか十分に話し合い、系列施設のサービス利用も含め、その状況にあった対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的に介護する人になるのではなく、利用者からみて、信頼(安心)出来る人となり、本人と一緒に仕事を行い共に生活している実感を持っていただくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が利用者と家族のような意識を持って接し、一緒に過ごしながら、お互いに支えあう関係を築くことができるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームは在宅であり、施設として構えないことが大切だと思います。家にいたときの延長線上にあるホームとして、これまでと同じように馴染みの関係を継続することがご本人にとっても安心できる生活になると思います。	利用者の知人・友人が、法人の医院への診察や、買い物帰りに訪れている。また、馴染みの店に出かけたり、同じ敷地内の施設利用者とも交流の機会が多く、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助けあうような場面が日常的に見られ、むしろ私たち職員の方が学ぶべきことが多いと感じる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方とも定期的に病院や他施設を訪れ関係性を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを表現できる方と出来ない方もいるため、日常の会話の中で、さりげなく思いを汲み取り意向に沿うようにしている。現在、飲酒や帰宅などそれぞれの思いに沿っていると思うが、全員の思いは反映されていない。	日常の個別ケアや言動の中で、思いや意向を把握している。表現できない人は、さりげなく語りかけ、思いを汲み取るよう努めている。利用者が、在宅の延長としての習慣を継続でき、その人らしい暮らし方ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等からの情報だけではなく、日々に会話のなかから利用者のこれまでの生活環境等を聞きだし、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常の生活の環境を毎日の職員のミーティング等で話し合い、細かに把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケア会議や毎日のミーティング等で課題を検討、情報の共有をはかりながら、利用者の思いを把握しケアマネと連携しながらケアプランに反映するようにしている。また、一ヶ月ごとにモニタリングしながら、サービスの見直し等を行っている。	事前に、本人・家族の意向や主治医の意見を確認し、担当職員を中心に、利用者の現状と、介護記録の把握、検証して、介護計画に反映させている。利用者の自立を支え、その人らしい生活ができるように、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個人ケースに記録し、利用者の様子やちょっとした変化などを見逃さないよう、毎日のミーティングで情報を共有し、日々の実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームから自宅へ、さらに自宅からショートステイやデイサービスへと連携したケースもあり、状況に応じて臨機応変に対応している。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、警察、消防、教育機関等と協力しながら、支援してもらっている。また、ボランティアには、頻繁に協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今まで利用されていた病院、主治医を本人の意向を汲みながら、通院できるよう支援している。これは、馴染みの関係を継続することとも繋がると考える。また、当法人の医院とも連携しご本人の医療ニーズがおおそかにならないよう勤めている。	契約時に、これまでのかかりつけ医の継続ができる事と協力医の受診について、利用者、家族が選択をしている。協力医による24時間の支援体制を整え、緊急時は、法人内の医院とも連携し、適切に対応を行い、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や系列の委員の看護師が、本人や職員の相談にのりながら、適切な受診を受けられるよう、日常の健康管理等の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、サマリーなど、連携医療機関との情報交換等に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、「看取りについての事前確認書」を提示し、ご家族の意思確認をおこなっている。また、実際に終末期が近づいてからでも、ご家族の意思が変わりないか、常に家族と意思確認を図りながらケアに取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期の方針を利用者、家族に説明し、同意を得ている。状態の変化に伴い、家族と関係者が話し合いを重ね、意思確認を行っている。看取りは、家族の意向を確認し、出来る限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入院時に本人または家族の意向を聞き、早い段階から重度化や終末期に向けた方針を話し合い、当事業所で出来ることをしっかりと見極め、隣接している医院と協力し、出来る限りの支援が行えるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署員立会いのもと避難訓練を実施し、災害時の避難方法等を職員同士で確認し合っている。また、地域の方、自治会の方にも災害時の協力をお願いし、訓練にも参加してもらっている。	災害訓練は、消防署協力の下で実施をしている。昼夜を想定し、避難方法、器具の扱い、通報などを行っている。訓練終了後は、反省会を開き、問題点の把握をし、今年度は、水害・地震想定訓練を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症(障害者)の人として見るのではなく一人の人格者として見ていく事が大切だと思う。スタッフ間にも、ばらつきがあり介護者の人間的成長も望まれる。今後さらに多くのことを学んでいきたい。	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけと、穏やかな対応を実践している。認知症を特別視せず、人生を共に歩む関係と捉え、誇りを損ねたり、不安や混乱が生じないように接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人が自己決定ができるように、希望や思いを把握し、一人ひとりの性格に合わせた対応に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースを大切に、本人が拒否したり不快に思われたりすることは無理強いせず、希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容院等本院の希望の店があれば利用してもらおうよう支援し、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士がメニューを考え、全体としての栄養バランスは取れているとおもうが、利用者と共に食事づくりができていくかという点、出来ていない現状がある。一部の利用者には料理の下ごしらえや食器洗い等やっていた。また、利用者の体調でメニュー変更を柔軟に対応している。	管理栄養士が献立をつくり、職員が作る料理の匂いが、利用者の食欲を誘っている。利用者は、自発的にテーブル拭きや箸並べなど手伝っている。食事中は、楽しい会話で、美味しさで満足感を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェックの記入をして、管理栄養士と連携をとりながら、一人ひとりに合った食事量、水分をバランスよくとっていただくよう、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口の中の汚れが生じないように、入れ歯の洗浄やうがい、歯磨きなどの口腔ケアを声かけや見守りながら、ケアしている。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄できない方には、介助を行っているが、大半の利用者は自立しておられ見守りですんでいる。日頃から一人ひとりの排泄パターンを把握し時期を見て声かけをし、失敗をしないよう(自尊心を損なわないよう)支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼夜共、トイレでの排泄を支援している。トイレへ促すときは、さりげない声かけで、対応している。夜間は、安全面に配慮をしながら、見守りと誘導で排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や栄養士と相談しながら、献立を工夫したり、適度な運動を勧めるなど、一人ひとりに合わせた便意対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほとんどの利用者は入浴を好まれるが、中には、拒まれるかたもいるが、その場合は、曜日など変更しご本人が無理なく入浴できるよう配慮している。また、入浴剤などを使用しリラックスできる時間を提供している。	入浴は、利用者の健康状態や希望に添って支援をしている。浴室前の予定表で、本人が確認をしている。見守りと介助で、恐怖心や負担感がないように配慮をし、重度者には、併設内の機械浴で対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活・睡眠パターンを把握し、休息、睡眠、起床の支援を行っている。日中のメリハリある生活や適度な運動をしてもらうことにより、夜間の安眠を確保するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や、副作用、用法、用量等の服薬の状況を一覧表にして、毎日確認しながら行っている。また、ケア会議等でも服薬の内容の確認や状況等も検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるように、その人の趣味や特技などを活かした活動ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所にある八百屋さんやドラッグストア、美容院、理容院、散歩等その日ご本人の体調や気分に応じて配慮しながら、ご本人の希望に沿えるよう支援している。	個々の希望に合わせて、周辺の散歩や庭での外気浴を実践している。長良川鉄道を利用し、市の中心にある八幡城へ出かけている。遠方の外出や年間計画では、家族と連携し、協力を得て、遠足や花見なども支援している。	利用者と家族の希望を踏まえ、家族と共に、事業所の一泊旅行を検討中である。実現できるように期待をしたい。



岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な方には、個人で管理してもらうよう、一人ひとりの希望や能力に合わせて支援するよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り本人の希望通り、電話したり手紙を出したり出来るよう支援している。携帯を持っている利用者もおられ、自由に電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当グループホームは、池のある庭があり、フロアーから見る外の景色も閉塞間のない空間になっている。また、フロアーの壁には季節ごとの飾りもの、(利用者の作った貼り絵等)や、手作りカレンダーで季節感を感じていただいている。	居間は広く、天井も高く開放的である。車椅子で自由に往来することができるよう、ゆったりとしたスペースがあり、利用者は、ソファで思い思いに過ごしている。季節の花や手づくり作品を飾り、墨で書いた標語などを掲示している。健康面を配慮し、空気清浄機を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣に座れるよう席などに気を配り、思い思いに過ごしていただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時家族にお話する時、馴染みのもの、ご本人が日頃使われていた物を持ってきてくださるよう一番のお願いとしてお伝えしています。それは、ご本人の安心にも繋がりに心の安定にも繋がると考えています。	居室には、表札を掲げている。安全に配慮した棚を備え、使い易く、整理もできている。使い慣れた小物や家族の写真、思い出の作品などを好みに並べ、居心地よく生活できるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂、廊下等全て手摺りが設置されている。居室やトイレが分かりやすいように表示するなど、混乱や失敗を防ぐよう工夫している。		